

2月27日(木曜日) 川上小で川上中1年生による「ただいま・おかえり授業」
川上小学校・川上中学校



川上小学校を卒業した川上中学校1年生による「ただいま・おかえり授業」が、母校の川上小学校で行われました。中学校1年生担当教員の提案を中学校長から小学校長へ伝え、総合的な学習の時間の一環として今回初めて実施しました。中学生が数人ずつのグループになり、1～6年生の全12クラスで、小学生が理解できるように工夫を凝らして算数科や社会科、理科、国語科、道徳科などの授業を担当しました。

生徒は学習指導案を作成し、模擬授業をしたり他グループの授業を見合ったりして、改善を重ねてきました。担当教員から指導を受け、どのグループもパワーポイントによる資料と電子黒板を使い、めあてやふりかえりのある授業を展開しました。

生徒の感想には、「指示を聞いてくれて嬉しかった」「達成感があった」「学校の先生は大変だ」等がありました。小学生も「楽しかった」と口々に言っていました。小学生にとっては学習や規律を学ぶことができ、中学生にとっては自己有用感やリーダーシップを育むことができました。

学校施設が近いという地の利を生かした小学生と中学生との授業での交流は、とても素晴らしい試みであり、今後も継続した取組となることを期待しています。

2月10日(月曜日)、14日(金曜日) 卒業プロジェクト！～ふるさとへの恩返し～
万倉小学校



万倉小学校6年生が、卒業プロジェクトとして、お世話になった地域のためにできることをしたいと考え、5年生と一緒に万倉ふれあいセンター前の花壇と、学校周辺道路の美化活動を行いました。

ふれあいセンター花壇美化活動では、花壇の世話をしている万倉地区の「まちづくりサークル」の方と一緒に活動しました。溝の中の落ち葉を集めたり、植木の根元の草を抜いたり地域の方と力を合わせて取り組み、地域の方から「子どもたちが一生懸命やってくれてありがたいし、頼もしい」と言っていただきました。

第2弾では、ゴミ0(ゼロ)作戦と題して、学校周辺の道路わきに落ちているゴミ拾いをしました。児童たちが、登下校中にゴミが落ちていることが気になっていたことから、この卒業プロジェクトで取り組むことにしました。集まったゴミは、学校に持ち帰り分別をして処分しました。意外に多くのゴミが集まり、児童も驚いていました。

6年生が企画・実行したこの卒業プロジェクト「ふるさとへの恩返し活動」が、一緒に取り組んだ5年生を中心に万倉っ子たちに受け継がれていくことを期待しています。

1月27日(月曜日) 「学びの森くすのき」で3年生が制作した赤間硯作品展
楠中学校



楠中では、毎年2年生の美術科の授業で山口県指定無形文化財の工芸技術保持者である日枝敏夫先生を講師にお迎えし、伝統工芸品の赤間硯を制作しています。まず、生徒たちに運命を感じたという石を選んでもらい、秋から月1回のペースで日枝先生の指導を受けながら、専用の大きなのみを使って丁寧に削っていきます。

仕上げた赤間硯を3年生のこの1月に「学びの森くすのき」のエントランスホールで2週間展示して、多くの来館者に見てもらいました。各自の作品には、「かまぼこ」「満月」「右足」などのタイトルがつけられ、その一つ一つに生徒の個性が感じられます。

名匠から直接教えてもらいながら伝統工芸品赤間硯を制作する取組は、楠中で長年継続して実施されており、地域の宝を後世につなぐ一助となっています。

1月27日(月曜日) フタマタセコーヒーショップを地域の方に向けて開店
二俣瀬小学校



二俣瀬小5・6年生が、永山酒造2階の「フタマタセコーヒー」にて、1時間限定で店員体験をさせていただきました。

この取組は、児童も参加した11月の学校運営協議会の熟議で決まりました。当日までに、ショップの皆さんとパフェやドリンクの共同開発を行い、試作をするなどのプレ体験を経て実現したものです。

開店当日、児童は注文を取って提供・会計する役と、厨房で品物を用意する役に分かれて店員体験をしました。席が空くのを待つ人や品物が売り切れてしまうほど、たくさんの保護者や地域の皆さん、中学生、子どもたちがお店に来てくれました。中でもオリジナルパフェは、さわやかなブルーベリー味の効いたおいしいパフェに仕上がりに、一番人気となっていました。

児童にとって「働く」ことへの大切な学びとなる貴重な体験となりました。

1月21日(火曜日) 高校生が教えるプログラミング教室 開催！
吉部小学校

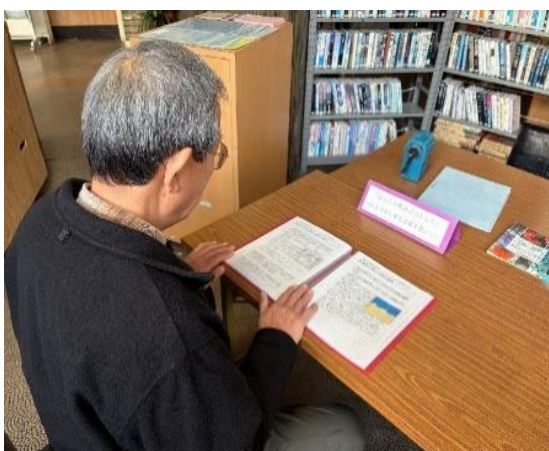


吉部小学校で、同小の学校運営協議会委員でもある小野田工業高等学校の教員と、メカトロ部の生徒により、プログラミング教室が開催されました。この教室は、吉部夢授業（小高連携）の一つとして計画され、数年来継続して実施されています。

最初に全校児童は、「山口県高等学校ロボット競技大会」に出場したロボットの見学とラジコンおもちゃの操作を楽しみました。その後、中・高学年の児童が、高校生のアドバイスを受けながらPCの3Dソフトを使って、ペン立てを製図し立体図に変換しました。児童は上手にプログラム入力を行い、最後に自分の名前を入れて終了しました。

後日、高校の3Dプリンターを使って完成した本物のペン立てが小学校に届けられました。このプログラミング教室は、児童と高校生の交流を通して双方にとって有意義な取組となっています。

1月16日（木曜日） 3年生が作成した地域のよいところ紹介文を西岐波ふれあいセンターに
展示
西岐波小学校



西岐波小学校の3年生は、国語の授業で「わたしの町のよいところ」について、児童それぞれが思う地域のよさを紹介文としてまとめました。3年生は、総合的な学習の時間で地域探検をした「八幡宮や遺跡」、社会科の見学で訪れた「スーパーマーケット」、食育の授業で実際に話を聞いた「みかんづくり」、2年生の生活科学習で関わった「お店」等、これまでの様々な地域学習を通して出合った「地域のよさ」を思い浮かべながら紹介文を書き、西岐波ふれあいセンターに展示されました。地域の方が手に取って読まれ、「ここのことを書いてくれているね」と喜ばれたり、「上手に書いているね」と感心したりしておられました。

西岐波ふれあいセンターには、小学校の150周年記念式典でアリーナに掲示した航空写真や昔の教室配置図、「写真で振り返る150年」等の資料も展示しており、児童の地域学習に関する作品とともに地域の多くの方に見てもらう場が提供され、学校や児童への関心や理解を促す取組の一つとなっています。

1月15日(水曜日) 交流している台湾の和順小学校から年賀状が届きました
小野小学校



宇部市の学校と台湾の台南市の学校が交流する取組として、5月に小野小学校と和順小学校5年生とでオンラインによる意見交換が行われました。お互いの学校紹介をしたり、小野小特製ハーブブレンド緑茶を飲んでもらった感想を聞いたりしました。小野小の紹介をした際には、「一人1台タブレットを使って・・・」のところで、画面の向こうから「わーっ」という驚きの声があがっていました。

その後、ホームページの掲示板を使って、和順小と小野小のお互いの紹介ページを閲覧し、交流をしてきました。

また、11月には和順小6年生ともオンラインで交流し、お互いの給食事情について紹介し合いました。

この度、その和順小から年賀状が届きました。日本の文化の学習を兼ねており、日本語で書かれていました。小野小からはお返しに、年賀状を受け取って喜んでいる児童たちの動画を送りました。

小野小の児童たちは、遠く離れた和順小との交流を楽しみ、自分たちのことを知ってもらえたことを喜んでいました。交流を重ねることで、心の距離を縮め、お互いの文化を尊ぶ気持ちを深めることができ、和順小の児童たちを一層身近に感じたことでしょう。

1月14日(火曜日) 地域の方による毎月の環境サポート
二俣瀬小学校



二俣瀬小学校では、毎月地域の方が来校され、学校支援として校内の環境整備をしてくださっています。

花壇や通学路の除草、花壇の花抜き、落ち葉拾い、チューリップ球根植え、屋外トイレ掃除、校舎内窓掃除、体育館掃除等、季節や天候に合わせ様々な場所をきれいにさせていただいています。児童も一緒に作業をする時間帯もあり、子どもたちとの交流が図られるふれあい活動にもなっています。

このように、定期的に継続して学校支援の環境サポートをしていただけることは、学校をきれいにしたいという学校と地域の思いがあるからこそです。日頃なかなか行き届かないところまで掃除をしていただき、感謝の言葉しかありません。

1月14日(火曜日) 渡邊祐策翁についてひ孫の渡辺裕志さんから学ぶ
新川小学校



新川小学校の3年生55人が総合的な学習の時間で宇部市発展の礎を築いた渡邊祐策翁が過ごした邸宅である松巖園を訪問し、ひ孫の裕志さんから祐策翁のお話を聞きました。児童たちは事前に「郷土を開いた偉人」として祐策翁の功績について学んでおり、その生家で、本人の写真や胸像、ゆかりの品を見た後、庭も散策し、祐策翁が過ごした日々に思いをはせました。祐策翁が、幼少期から向学心が強かったことや、宇部のみんなの暮らしをよくするために『共存同栄』を大切にしていたことなど、教科書では学べないことをたくさん教えていただきました。児童たちは、ひ孫の裕志さんが話された祐策翁の人物像や志を知ることによって郷土の偉人を身近に感じ、故郷を誇りに思ったことでしょう。

1月8日(水曜日) コミスクの理解を促すCSプレゼンの活用
神原小学校・船木小学校



県内の小・中学校では、コミュニティ・スクール経営の強みを生かした学校づくりや、特色ある取組、活動等を紹介するプレゼンテーション（以下、CSプレゼン）を作成しています。宇部市内の小・中学校においても、次年度へ引き継ぎたい学校と地域の連携・協働した取組や学校・地域の魅力を伝えるCSプレゼンが作成されています。神原小学校と船木小学校では、3学期始業式の「校長先生のお話」の中で、CSプレゼンを活用して、コミュニティ・スクールの取組が紹介されました。児童にとって、自分たちの活動が、コミュニティ・スクールとしての特色ある取組・活動であることを理解するよい機会となりました。今後、学校運営協議会や保護者等に向けたCSプレゼンの紹介により、コミュニティ・スクールへの理解促進や地域との連携・協働による取組を推進し、学校・地域の魅力化を図っていただきたいと思います。